



BABY

わが家の天使 こんにちは赤ちゃん

わが家の自慢の**赤ちゃん**を掲載しませんか？
 (最初の誕生日を迎えるまで)
 申し込みは役場復興課広報係 ☎ 286-3210 まで



うえだ
上田ひより ちゃん
 (惣領1町内)

おむつやごはん、たくさん
 ありがとう！みんなの
 おかげで元気です☆
 頑張ろう益城！

パパ 駿さん ママ リかさん



ふじき らいと
藤木 光翔 くん
 (広崎2町内)

毎日ハイハイで探検して
 います。

パパ 叙臣さん ママ カナエさん



さくとり しゅん
作取 駿 くん
 (寺迫)

いつも元気いっぱい。
 たくさん食べて大きくな
 るぞおー！！

パパ 精二さん ママ 奈津美さん



ごんどう みさ
権藤 美紗 ちゃん
 (辻の城団地)

おにいちゃんとおねえ
 ちゃんに遊んでもらって、
 ケタケタ笑うのが日課の
 みさちゃんです。

パパ 達彦さん ママ 美穂さん

益城の文化財

町文化財保護委員会



広崎

ひやたかさん



広崎公園から東の方へ入った所に北原台地があり、その南の端に「早鷹神社(通称：ひやたかさん)」があります。この地は「広崎」発祥の地といわれ、一帯は九州自動車道建設に伴う発掘調査において、縄文から古墳時代の遺跡であることが確認されています。

かつて北原台地は小高い乾燥性の丘であり、近くには湧水地がありました。狩猟で食を求めた縄文人や稲作を

行った弥生人としては、絶好の居住場所であったと思われます。

その昔、人々は「影向石」と呼ばれる大きな石に自然神の神体を求め、開拓神として祀りました。そこに神が降りられたのが「ひやたかさん」伝説の始まりといわれています。

「ひやたかさん」の伝説は、人には見えない神霊が時に応じて石の上に現れたり、童子の姿で現れたり、ある時には素早い鷹に変身して神意を告げたとはいわれています。

この地域は、時代の流れとともに秋津川沿岸が干陸化し、稲作耕地として利用されるようになったことから、村落の中心が南に移り始め、祭神と影向石は現在の「神楽社」のある場所へと移されました。

「ひやたかさん」の場所は、以前は高台でしたが、明治30年頃の熊本高森線(新道)工事に伴い、福富～広崎間の低い土地を埋めるために土砂採取され、周囲が「池」のようになっていた時代もあったようです。

現在はゲートボール場として利用されていますが、「ひやたかさん」は組のみなさんにより管理されています。毎年11月17日がお祭りです。

参考文献 『益城町史 通史編』